

記載例（事業計画書及び収支見積書 解体業） 表

事業計画書及び収支見積書

令和〇〇年〇〇月〇〇日 現在

1 事業全体計画（業務を行う時間、従業員、休業日、扱う車種（乗用車、大型車）を含む。）

使用済自動車の引取り（自社運搬） 使用済自動車の保管（当該場所で保管） 使用済自動車の解体の手順 1. 廃油・廃液の回収（手作業による回収） 2. エアバッグ類の回収（自動車製造業者等が定める引取基準に従いインフレーターを回収） 3. タイヤ・バッテリー等の回収（バッテリーについては売却、タイヤについては、利用可能なものについて売却し、その他のものは廃棄物として委託処分） 4. その他の部品等の回収（手作業又はニブラにて取り外し、利用可能なものについて売却し、その他のものは廃棄物として委託処分） 解体自動車の保管（当該場所で保管） 解体自動車の引渡し（自社運搬） (フロー概略図を添付)					
業務時間	9:00~19:00	従業員数	4人	休業日	日曜、祭日

2 使用済自動車等の引取実績及び計画

解体業として、引取業者又はフロン類回収業者から引き取った使用済自動車の台数

年 度	R3 年度実績 (3年前)	R4 年度実績 (2年前)	R5 年度実績 (1年前)	許 可 取 得 後 の 年 間 計 画
引 取 台 数	200台	150台	80台	250台
主な取引先	〇〇モーターズ	〇〇モーターズ	〇〇モーターズ	〇〇モーターズ

3 解体実績

年 度	R3 年度実績 (3年前)	R4 年度実績 (2年前)	R5 年度実績 (1年前)
年間処理実績	200台	150台	80台
年間稼働日数	310日	310日	310日
平均処理実績	0.6台/日	0.5台/日	0.3台/日

4 解体能力

1日当処理能力	稼働予定日数	年間処理能力
20台/日	300日	6,000台

5 保管の状況

使用済自動車		解体自動車	
保管量の上限	60台 ()	保管量の上限	60台 ()
現在保管量	30台 ()	現在保管量	30台 ()

※事業場以外の場所で保管している場合は、その台数を内数で () に記入すること

- 使用済自動車、圧縮していない解体自動車を、屋外において保管する場合
- (1) 保管の高さ
- イ 囲いから保管場所の側に3m以内の部分：高さ3mまで
 - ロ 囲いから保管場所の側に3mを超える部分：高さ4.5mまで
 - ハ ラック等格納するための施設（構造耐力上安全なものに限る）に保管する場合：使用済自動車等の搬出入に当たり、落下による危害が生ずるおそれのない高さ
- (2) 保管の上限 上記高さを超えない限りにおいて保管することができる数量
- プレスやせん断してある解体自動車を屋外で保管する場合
- (1) 保管の高さ
- イ 囲いに接している場合：囲いの内側2mは囲いの高さより50cm以下の線とし、2m以内の内側は勾配50%以下とすること。
 - ロ 囲いに接していない場合：囲いの下端から勾配50%以下とすること。
- (2) 保管の上限
処理施設の1日当たりの処理能力に相当する数量に14を乗じて得られる数量を超えないようにすること。

6 年間収支見積書

項 目	解体作業に係る賃金、光熱費含む。	年 月 日 現在			
		前年度 (R5年) (決算月 (3月))		今年度の見込み (決算月 (3月))	
		年度 (千円)	(1台当) (円)	年度 (千円)	(1台当) (円)
売上高 (全体)	ア 総売上収入)	2,000	25,000	6,250	25,000
売上原価	イ 使用済自動車等購入費)	500	6,250	1,562	6,250
その他の経費	ウ	650	8,125	2,031	8,124
うち廃棄物処理委託費	エ	500	6,250	1,562	6,248
営業利益	オ=ア-イ-ウ	850	10,625	2,657	10,626
営業外損益	カ (主に支払利息 (注))	-20	-250	-62	-248
経常利益	キ=オ+カ	830	10,375	2,595	10,380
使用済自動車等年間引取台数		80		250	
使用済自動車等年間処理台数		80		250	

(参考)

	前年度末	現在
負債総額 (年度末残高) (千円)	5,000	4,500

- (注) 1 「1台当」額は、売上原価は引取台数で、その他は処理台数で割ること。
2 支払利息のみの場合又は支払利息が受取利息より多い場合はマイナスで計上すること。